

あたたかな まなざしを
～空に光る星 その数いくつ～

子どもたちは、幼稚園で星、月、宇宙に興味、関心を示して、神さまの創造された広い世界に目を向けています。

幼稚園生活では、夜空に輝いている星、月を見ることはできません。また、夜にご家庭で星を見ようと思っても、西宮ではなかなか難しくなっているのではないのでしょうか。

24時間社会になり、夜でも空が明るい地域が増えてきました。私たちの生活は便利になる反面、そのことで星が見えにくくなり、豊かな心を育む時が失われつつあることは、とても残念なことです。

娘たちが幼稚園や小学生の頃、夏休みには山へキャンプをしに、家族で出かけていました。時計を気にすることなく、太陽が昇り始めると活動をはじめ、太陽が沈み暗くなるまでに活動を終える、というのが、我が家のキャンプのスタイルでした。

太陽が昇り始める前の周りが少しずつ明るくなる時、ワンバーナーでお湯を沸かし、自然の音に耳を傾けながら静かにコーヒーを飲むのが、私のキャンプの楽しみの一つでした。

そのような我が家のキャンプの楽しみの中に、寝そべて星を見ることがありました。満天の星空を見ることは、都会ではあまり経験できない感動の時でした。

夜空に輝く星を見ていると、「あたたかなまなざしを」注がれているようで、穏やかな気持ち、ホッと落ち着いた気持ちになったことが思い出されます。娘たちも最初は「きれい!」「いくつあるかな?」「あの星のほうが大きい!」「あっ、流れ星だ!」など話をしていましたが、途中からは無言で星を眺めていました。心で何かを感じていたのでしょうか。夏になると今でもその当時のことを懐かしそうに話す娘たちです。

この夏、夏ならではの経験を通して、神さまの創造された世界にあらためて目を向けてみてはいかがでしょうか。

アウトドア派園長 赤木敏之